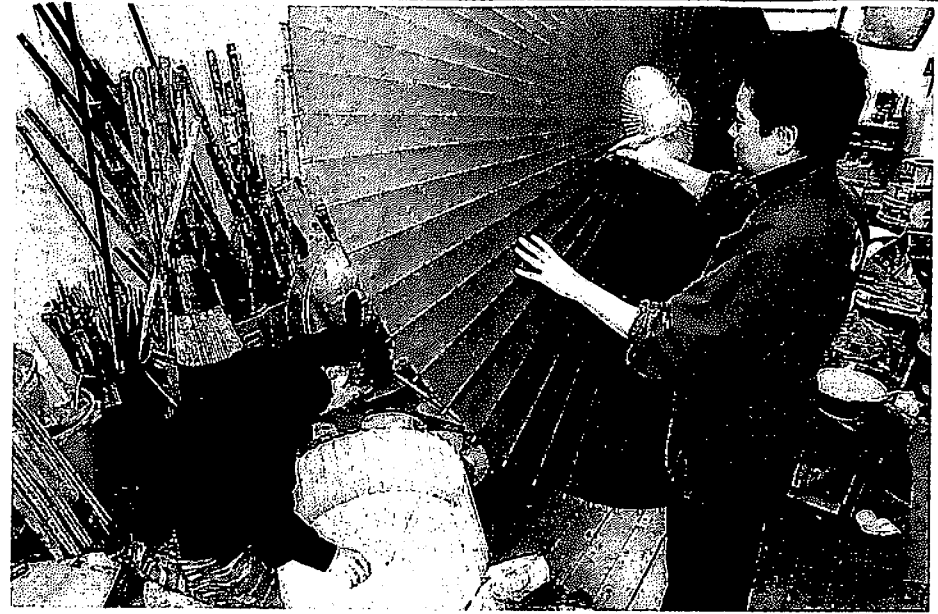


豊かさを再考

輸出戦略練り直し



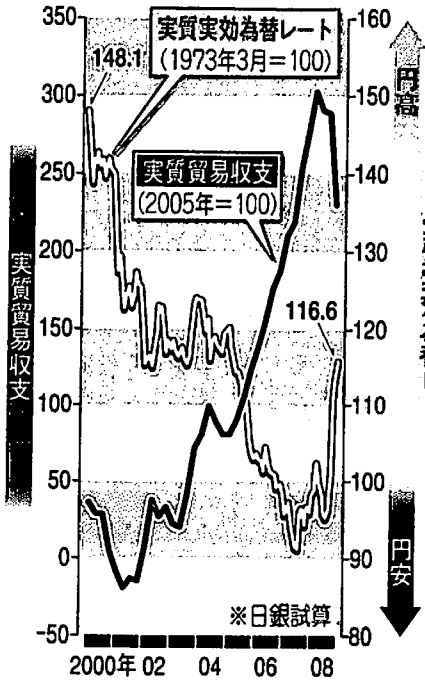
金融危機に端を発する世界的な不況が深刻さを増している。新興国の経済成長も減速。貿易の縮小は避けられず、田舎も急激に進んでいる。日本の輸出産業に活路はあるのか。

情報技術(IT)産業が不況を乗り越えていた貿易収支額に占めた二〇〇〇年春以(物価調整後の実質ベース)際、日本経済のエンジン役を果たしてきたのは輸出だ。これには大膽な田舎が寄与してきた。輸出相手国・地域の通関手や通関業者は、急ぎ足で、貿易相手や物価で調整した「貿易実効レイト」である。法人市民税の減収など、国内と、昨年の田相増は二〇〇〇年の地域経済への影響も深刻に及ぼした。

この「快適な輸出環境」は、究所の藤田昌久所長は「米国の昨年後半から逆転した。大幅はこれ以上消費を拡大する」

独立行政法人・経済産業研究所の藤田昌久所長は「米国の昨年後半から逆転した。大幅はこれ以上消費を拡大する」

日本の貿易収支と為替レート



和傘の老舗、日吉屋では伝統茶席用の骨組みの組立作業が、同じ工房で進んでいる。京都市上京区とほできない。これまで、日本の技術と中国などの安い労働力が高度に組み合わされて、東アジアが世界の生産拠点の役割を果たしてきたが、今後は輸出の構造を変えなくてはならない」と指摘する。具体策として「よりよいものが考えられるだろうか」。

輸出型の大企業が総崩れとなる中、これから輸出に打って出るという元気な企業が京都市内にある。和傘の老舗である日吉屋(西堀耕太郎代表、従業員六人)だ。新製品として開発した照明具「古都里(ことり) (KOTORI)」、シリーズが欧州で高く評価され、同社二階の工房は「フル操業」だ。

米国の副大統領候補だったペリン・プラスカ州知事が愛用していることで注目を集めた、増永眼鏡(福井市)のメガネは、海外からの受注残が六千本ある。米経済の混乱は逆風だが、部品点数を大幅に減らすなど軽量化した機能的なデザインには、根強い人気があり、同社の輸出比率は約30%を維持している。

高い技術や繊細なデザインに支えられ、模倣できない製品は、大量生産して市場占有率を争う必要がない。むしろ海外で高い評価を受けることで、国内で販売が伸びるといふ好循環も期待できる。規模は小さくとも、確実な利益を生む質の高い輸出産業に育つ可能性を秘めている。

世界不況、技と知恵生かす

なぐール(かごい)は、従来の解決できなかったシャパンという感性の価値を売る(ことが大事だ)。(経済産業政策局の石原康彦審議官) 例えは、中国など東アジアで上期待しており、日本製の日用品のブランド力を高めるため、国際標準市への輸出や販売促進の支援を強化する方針だ。

政府の役割が重要に 一方、これまで輸出を主軸としてきた自動車や電子機器分野は競争の激しさを追いついていない。米国の経済が回復しても以前ほどの販売は期待できないからだ。日本国内には研究・開発拠点や、高い技術が必要部品工場を維持し、新製品向けの製品を海外工場で製造するという複雑な展開が不可欠だ。

世界経済の不透明感が強まる中では、一つの輸出戦略だ

京和傘の老舗「日吉屋」代表 西堀 耕太郎氏



伝統技術で新製品を生む

和傘の需要は減少の一途。製造元は全国で十数軒しか残っていない。京和傘は、江戸時代後期に創業された当社だけだ。私が五代目目を継承した時には年商が百万円程度で廃業寸前でした。和紙、竹、木を素材にするすばらしい技術と、雨具以外の製品に活用できないかと試行錯誤を重ねていくうちに、ある照明デザインと出会い、思い切った傘の上部を外して筒状にしたらどうかというアイデアが浮かびました。 上部を開放すること、私たちに想像できなかった。逆、「開いたり閉じたり」という私たちの常識は、デザインには新鮮だったのです。コラレーション(協業)を通じてまったく新しいもの

がでることを実感しました。 二〇〇八年一月にパリで開かれた国際見本市に出展、デザインだけではないと、軽くて小さなたたきやすくて機能性を評価された。見本市にも出展して海外からの注文が来るようになった。 たたきやすさは和傘です。茶席の野たて傘から、古い和傘の修理まで、どれも伝統技術と部品が必要で、メンテナンス(傘の中板部品を交換する)は、全国で長屋木工所(岐阜県岐阜市)に任せ、職人がいなくなったら、和傘も照明具もへんがせ

製品を創産することで伝統技術も守れるのではないのでしょうか。